

第5学年国語科学習指導案

単元名 身近な生活について討論しよう

教材名 「インスタント食品と私たちの生活」大塚 滋 作（東京書籍 小学校5年下）

1 単元について

(1) 児童観

本学級の児童は、前単元で「筆者の工夫を取り入れながら、調べたことを意見文にまとめ発表しよう」という学習を経験している。この学習では、環境問題について調べ、教材文で学んだ筆者の述べ方を取り入れながら意見文を書く学習を行った。調べたことや自分の考えを相手に効果的に伝えるためには、どのような述べ方の工夫をすればいいか考え表現する学習を通し、接続語や文末表現・問いかけ文等に注目しながら筆者の主張を読み取ったり、収集した情報を効果的に構成しながら自分の意見を述べたりする力が少しずつ高まってきている。しかし、筆者の主張と自分の考えとを比べたり、情報を読み解いた上で根拠を明らかにしながら自分の意見を述べたりするまでには至っていない。様々な情報から多様な考えを受け止め考察できるようになるこの時期に、知識や経験を基に自分の考えと比べながら情報を読んだり、自分の考えを根拠をもって述べたりする学習をすることは意義深いと考える。

(2) 教材観

本単元は、「インスタント食品とわたしたちの生活」を教材に、調べたことを基に討論するディベートを言語活動として位置付け、根拠をもって効果的に自分の考えを主張する力を高めさせることをねらいとする。これは、第5学年及び6学年「A話すこと・聞くこと」(2)イの「調べたことやまとめたことなどについて討論などをする」言語活動にあたる。教材文は、「インスタント食品を積極的に取り入れるべきである」という論題についてディベートする際の一つの資料という目的をもって読ませる。「インスタント食品とわたしたちの生活」はインスタント食品の便利さを上手に生かしながら、豊かな食生活をつくりあげていきたいと筆者が主張している説明文である。序論で問題を提起し、本論で「便利さ」と「問題点」を述べ、結論で筆者の主張を述べている。「インスタント食品」というテーマは子どもたちにとって身近であり、自分たちの生活や経験を基に考えを比べるのには適した教材である。「C読むこと」(2)ウ「目的に応じて文章の内容を的確に押えて要旨をとらえ、自分の考えを明確にしながらかく読む」こととの関連を図り、必然性をもたせて指導していきたい。

(3) 指導観

導入では、「学校昼食は給食がいいか弁当がいいか」という同じ論題によるフリートークとディベートの様子を比べさせることで、話し合いの仕方の相違点を話し合いながらディベートのイメージをもたせ「わたしたちもディベートをやってみよう」という意欲を喚起する。そして、「ディベートにチャレンジ！話し合い名人になろう」という学習課題を設定し、解決するための学習計画を話し合い、学習の目的と見通しをもたせ意欲的に学習に取り組めるようにしたい。

次に、「インスタント食品を積極的に使うべきである」という論題を提示し、自分の考えをもつための一つの資料として教材文「インスタント食品とわたしたちの生活」を提示する。ディベートをするために読むという必然性をもたせることで、児童は筆者の考えと自分の考えを比べながら読んでいくだろうと考える。このとき筆者の述べ方にも注目させ、具体的根拠から自分の考えを述べる述べ方は、読み手に分かりやすく説得力があることに気付かせ、ディベートにおける立論の述べ方に生かせ

ることを学習する。さらに、他の文章やアンケート資料と比べ読みさせることでいろいろな考え方があることに気付かせ、自分の立場を明確にして具体的な根拠と結び付けながら分かりやすく自分の考えを立論としてまとめさせたい。そして、すべての児童にモデルディベートを行わせ、互いに見合わせることでよりよい話し合いの仕方について考えさせる。

そして、これらの学習を生かして、身近なテーマでディベートに取り組ませる。クラスを二つに分け、それぞれテーマを与えて、計画・準備させる。根拠となる資料は教師の方から提示するが、児童の自発的な取り組みも尊重し、児童自身が行うアンケート調査結果や集めた資料も認めることとする。勝敗にこだわらず、友達の発言の仕方のよさや相手の意見を受けて答えることのよさに目を向けさせたい。

2 単元目標

文章の組み立てに注意して読み、述べられている事柄を正確につかむとともに筆者の考えを読み取ることができる。

身近な生活の中の問題について、理由や根拠を明確にしながらかん論することができる。

3 単元の評価規準

| | |
|-----------------------|--|
| ア 国語への 関心・意欲・態度 | 計画的に話し合うことの大切さに気付き、よりよい話し合いに向けた準備やディベートに意欲的に取り組もうとしている。 |
| イ 話す・聞く能力 | ディベートの方法が分かり、互いの立場や意図を明確にして、計画的に話し合っている。【A話すこと・聞くこと(1)オ】 |
| ウ 書く能力 | 論題に対する自分の意見とその理由や根拠となる事例のかかわりを明確にしながらかん文を書いている。【B書くこと(1)ウ】 |
| エ 読む能力 | 文章の構成や表現の工夫を押えながらかん内容や要旨を的確にとらえ、自分の考えを明確にしながらかん読んでいる。【C読むこと(1)ウ】 |
| オ 言語についての 知識・理解・技能 | 自分の考えを明確にするための様々な表現の工夫について理解している。 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の(キ)】 |

4 指導と評価の計画(全12時間)

| 次 | 瞬間 | 学習活動 | 指導上の留意点 | 評価とその方法 |
|---|----|--|--|---|
| 一 | 1 | フリートークを行う。 ディベートのビデオを見て、学習課題を決める。 「ディベートにチャレンジ！話し合い名人になろう」 | ・「学校昼食は給食がいいか弁当がいいか」というテーマでフリートークをさせる。 ・ディベートのモデルビデオを提示しイメージをつかませ、フリートークとの違いから問題意識をもたせ、学習課題を決定する。 | ア 話し合いの仕方の違いを見付け、学習課題を決めるために、積極的に話し合っている。 〔学習課題についての発言及びワークシートの記述内容〕 |
| | 2 | 課題達成のための計画を立てる。 ディベートの論題を知る。 教材文を読む。 | ・学習課題達成のために必要な学習について話し合わせる。 ・ディベートの論題を提示し、教材文と出会わせることで、教材文を読む必然性を感じさせる。 | ア ディベートに関心を持ち、学習課題を達成するための学習の方法や進め方について見通しをもっている。 〔話し合いの様子及びワーク |

| | | | シートの記述内容] | |
|---|---------|---|--|--|
| 二 | 3 | 教材文「インスタント食品をわたしたちの生活」を読み、筆者の主張とその根拠を読み取る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・問いかけと答えの文から構成をとらえさせ、要旨を読み取らせる。 ・筆者の考えの根拠となる事例について読み取らせる。 | <p>エ 教材文を読み、構成をとらえながら筆者の考えとその根拠を読み取っている。</p> <p>[ワークシートの記述内容]</p> |
| | 4 | 教材文「インスタント食品をわたしたちの生活」を読み、筆者の述べ方の工夫について読み取り、立論の書き方を知る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・文章の構成や接続語に注目させ分かりやすく説得力のある主張の述べ方の工夫について考えさせる。 | <p>エ 筆者の述べ方の工夫を読み取り、工夫を生かして自分の考えを立論に書いている。</p> <p>[ワークシートの記述内容]</p> |
| | 5 | 教材文と補助資料・アンケート結果を読み比べ、いろいろな考えがあることに気づき、根拠を明らかにしながら自分の考えを書く。 | <ul style="list-style-type: none"> ・教材文と他の資料を比べ読みすることで、いろいろな考えがあることに気付かせ、自分の考えをもたせる。 | <p>エ・ウ 教材文と補助資料を読み比べ、いろいろな見方・考えがあることに気付くとともに、論題に対する自分の考えを書いている。</p> <p>[ワークシートの記述内容]</p> |
| | 6 | 「インスタント食品を積極的に使うべきである」という論題のモデルディベートに向けて、計画・準備する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・役割分担や準備の手順を確認する。 ・「立論カード」「作戦カード」に沿って、立論を立てたり、根拠となる資料を整理したり予想される質問に対する答えを準備させたりする。 | <p>ウ・オ 立場を明確にしながら、グループで協力し、立論や作戦を立てている。</p> <p>[グループでの準備の様子 ワークシートの記述内容]</p> |
| | 7 8 | 「インスタント食品を積極的に使うべきである」という論題でモデルディベートをし、よりよい話し合いの仕方(技)について考える。 | <ul style="list-style-type: none"> ・進め方が理解できるように、一つ一つ説明しながら進める。 ・「根拠をはっきりさせて相手を説得すること」や「相手の考えを受けて質問や意見を述べること」がよい話し合いのポイントであることを押さえる。 | <p>イ・オ モデルディベートを通して、よりよい話し方のポイントに気付いている。</p> <p>[ディベートでの発言及び ワークシートの記述内容]</p> |
| | 9 10 | 身近な生活を論題にディベートを行う計画を立て、準備をする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・テーマと役割を確認させる。 ・立論の根拠となる資料を集めさせ、発表原稿や質問予想に対する答えを準備させる。 | <p>エ・オ 身近な論題でディベートするために、立場を明確にしながら計画や準備を行っている。</p> <p>[グループでの準備の様子 ワークシートの記述内容]</p> |
| | 11 | 2グループに分かれ、「小学生は午後9時以降にテレビを見な | <ul style="list-style-type: none"> ・事前のディベートで学習した、「根拠を明らかにしながら述べること」や「相手の意見を受け | <p>イ・オ 根拠を明らかにしながら意見を述べたり、相手の考えを受けながら</p> |
| 三 | | | | |

| | | | | |
|---|----|--|---------------------------------|---|
| | 本時 | い方がよい」「宿題をなくすべきである」の二つの論題で、それぞれディベートを行う。 | 入れながら述べることを意識しながらディベートをさせる。 | 発言したりしている。 〔ディベートでの発言及びワークシートの記述内容〕 |
| 四 | 12 | 学習を振り返り、学習課題の達成について確認する。 | ・評価表をもとに自己評価させ、自分に身に付いた力に気付かせる。 | オ 学習を振り返り、話合いのポイントや身に付いた力について気付いている。 〔ワークシートの記述内容〕 |

5 本時の計画 (11 / 12)

(1) 目標

事例を挙げて相手を説得したり、相手の考えを受け止めて質問や意見を述べたりしながらディベートをすることができる。

(2) 展開

| 学習活動 | 指導上の留意点及び評価 |
|---|---|
| 1 学習のめあてを確かめる。 | 学習計画表から本時の活動を確認させ、一人一人のめあてをもたせる。 |
| <p>話し合い名人の技を使ってディベートをしよう</p> | |
| <p>2 話し合い名人の技を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・立論 ... 主張 根拠 まとめ ・質問 ... 相手の意見を受けて ・意見交流 ... 根拠をはっきりさせながら説得力のある意見を ・最終意見 ... 意見交流の話を受けて | <p>これまでの学習を振り返り、本時で目指す話し合い名人の技を確認させる。</p> <p>モデルディベートの時の友達のよい言い方を振り返らせ、意識付けをする。</p> <p>ディベートのフォーマットを提示し、流れの見通しをもたせる。</p> <p>役割を確認させる。</p> |
| <p>【話し合い名人の技】 「相手の意見を受けて」「根拠を明らかにしながら」</p> | |
| <p>3 論題1「小学生は午後9時以降にテレビを見ない方がよい」についてディベートする。</p> | <p>「小学生は午後9時以降にテレビを見ない方がよい」という論題でディベートをさせる。</p> <p>判定者には判定用紙、フロアにはフロアシートを持たせる。友達の話し方に注目させ、めあてを意識したよい言い方をメモさせ、判定や感想交流に生かせるようにする。</p> <p>話し合いの内容が論点からそれた時は、司会者の支援をしたり、方向修正するよう助言したりする。</p> <p>意見交流で意見が滞ったときは、それぞれの側に適宜、支援に入る。</p> |
| <p>4 論題2「宿題はなくすべきである」についてディベートする。</p> | <p>二つ目の論題「宿題をなくすべきである」でディベートをさせる。</p> <p>一つ目のディベート同様、適宜支援に入る。</p> |
| <p>【評価】 根拠を明らかにしながら意見を述べたり、相手の考えを受けながら発言したりしている 〔ディベートの様子〕</p> | |
| <p>5 ディベートを振り返り、話し合いの仕方によさについて感想を交流する。</p> | <p>ディベートを終えての感想やめあてを意識した友達の姿について感想を交流させる。</p> <p>互いの良さを話し合わせることで達成感を味わわせる。</p> |

